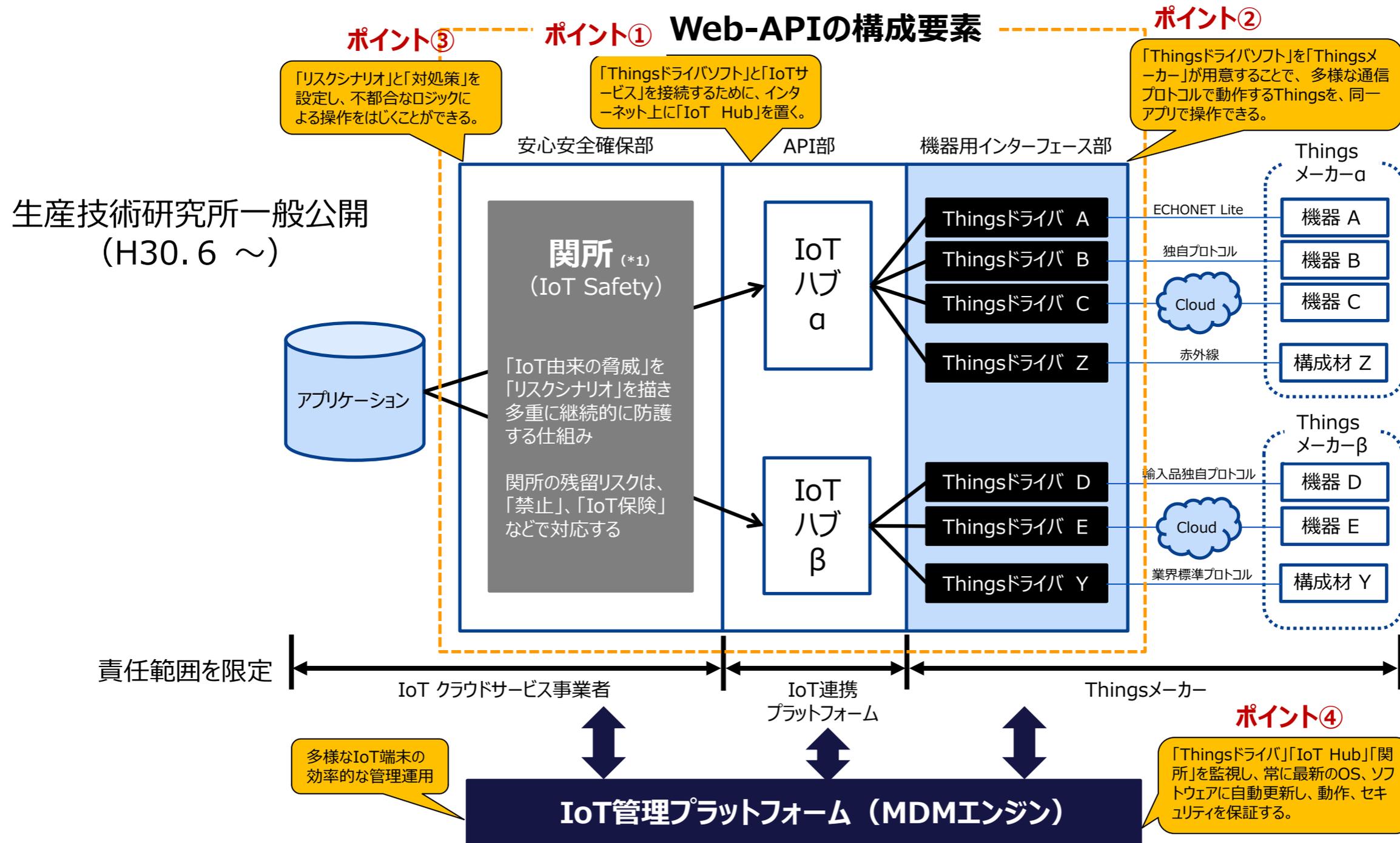


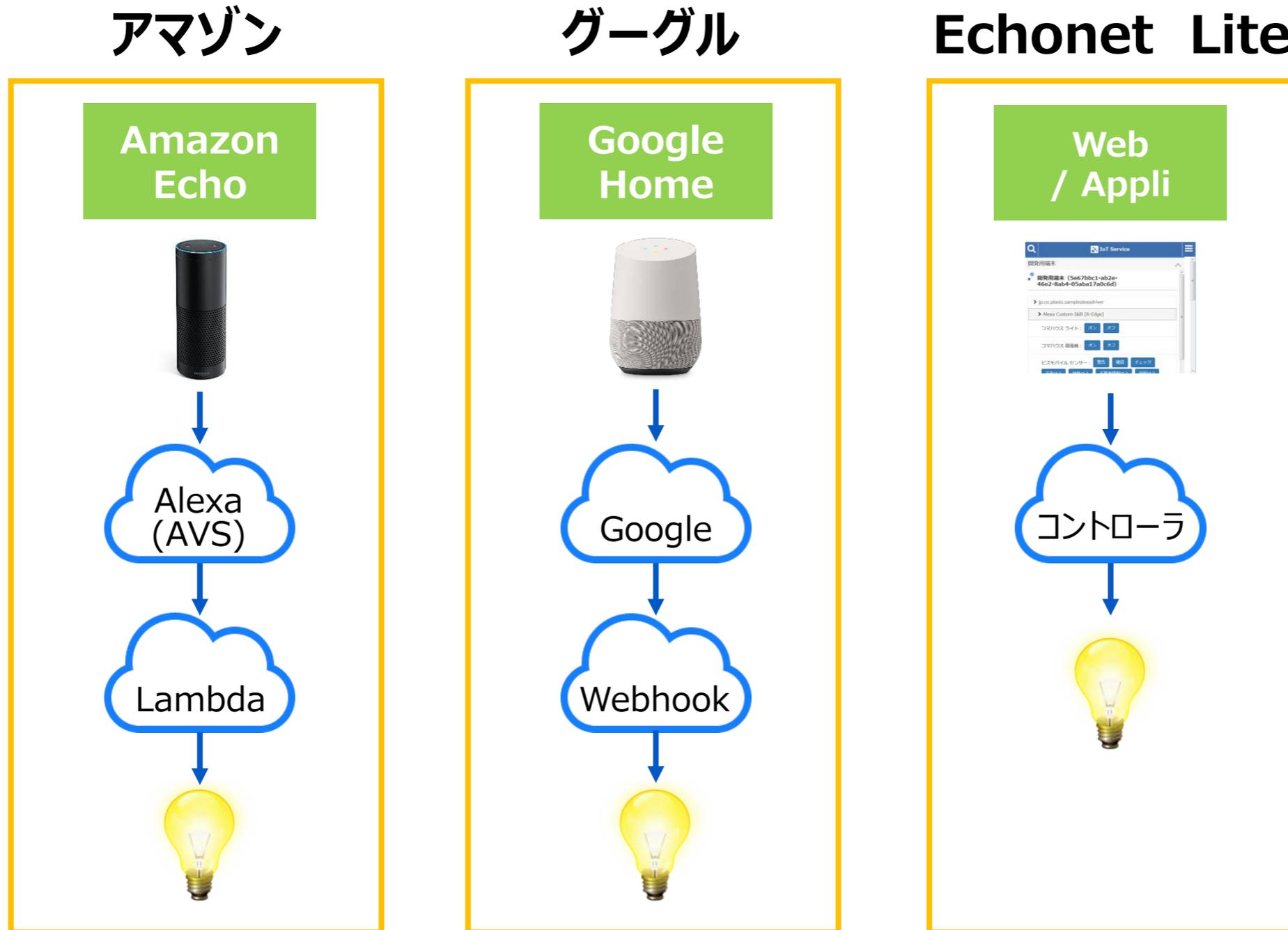
相互接続IoTプラットフォームの概要

Amazon/Google/Appleなど、生活用IoTで先行する企業は独自プロトコルで互換性のない、「サイロ化」状態のまま世界的規模で勢力を拡大しており、標準化も進んでいない。そこで、独自プロトコル同士でも接続できる「**Web API**」を発展させ、インターネット上の「**ハブ**」にモノとアプリをつなぐ「**Thingsドライバ**」を置くことで、普遍的な接続性と相互運用可能性を実現し、「**関所**」でIoT由来の脅威を減少させ、「**MDMエンジン**」で世代管理問題を解決する。



(*1)Web-APIに安心安全を確保する関所機能を設け、エンドユーザやThingsにとって、好ましくない操作を排除する機能 (HEMSアライアンス、東京大学、稲垣隆一弁護士との共同研究成果)

IoTサービスごとに、独自プロトコルで「サイロ化」状態



Thingsドライバを作れば「サイロ化」状態のまま連携可能

BizMobileが作成した Thingsドライバ (例)

- Amazon Echo
- Google Home
- Echonet Lite

Amazon Echo

Google Home

Web / Appli



機器用インターフェース部 (RIoT Service)



Thingsを制御するための、独自プロトコル範囲

- Amazon Echo
- Google Home
- Echonet Lite